

次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ⑰

「雪害によるハウス倒壊を

目の当たりにして」



ハウスに建て替えるなどして経営の再建に向けて前向きに進んでいます。私はこのような状況を経験した中で、自分なりに自問自答しながら考えた末、トマト経営の後を継ぎ、将来は新型ハウスに建て

我が家は、トマトを経営する農家です。私は、父がトマトを栽培している後ろ姿を見て育ってきました。そして、父が丹精込めて育てたトマトはとてもおいしく自慢のトマトです。

ある大雪の晩、ハウスの雪対策を念入りに行った我が家のハウスはつぶれずにすみました。近所のハウスは、雪の重みでつぶれてしまい使い物にならなくなってしまいました。改めて自然災害の恐ろしさを感じたと同時に父が夜通し対応したことのすごさを垣間見たような気がしました。また、つぶされたハウスの生産者も最新の高軒高

替えられるよう頑張ろうと就農の意志を固めました。

今は、父のようなおいしいトマトを作れるように本格的にトマト栽培を学ぶため、県農業大学校に進学し、現在は、「トマトの良食味に関する品種比較」を卒論のテーマに実習に励んでいます。実習や講義で多くの事を学んでいます。実践力や農業経営を学ぶため、農大を卒業した後は先進農家へ研修に行き、より高いレベルの技術や経営力を身につけ、多くの経験を活かし就職できるような努力していきたいと思っています。

将来私がトマト栽培をするようになった時、失敗したり悩みを抱えたりすることがあると思います。そんなときは、農大と一緒に学び寮生活した仲間や先生方などからえるよう学生同士の輪や先生方などの人脈を増やし、将来に活かせるよう頑張っていきたいと思っています。

(園芸経営学科 野菜専攻 石塚優斗)



「将来の和牛繁殖経営に向けて」

私の両親は共働きのため、幼少の頃は祖母と過ごすことが多く、祖母は私の面倒を見る一方で、十数頭の繁殖用雌牛を飼育していました。朝や夕方の餌やりはもちろん、病気になった時の手当、出産の手助けや難産時の介助など獣医師と共に見守り、無事に生まれると嬉しそうに話をするのが印象的でした。

そんな祖父母の姿を見て育った私は、高校を卒業し栃木県農業大学校へ進学し、酪農・肉牛・飼料作物に関する専門的なことについて学んでいます。我が家では、昨年から死産や出産後の死亡が多く、祖母はとても残念がっています。子牛も人間同様に母胎の中で十ヶ月間育ちこの世に生まれてきます。その期間中には、胎児の成長に必要な良質な牧草を豊富に給与し、清潔な環境で安全に過ごせるよう配慮しています。また、母牛の健康状態についてもよく観察するなど留意しています。和牛繁殖経営は、「様々な工夫」と「たゆまぬ努力」が私達の仕事と考えています。

学校では我が家の課題も踏まえ、「出産時の事故」を課題として検討していきます。そして、多くの経験を重ね飼養管理技術の向上に励み、将来は和牛繁殖経営の安定化を目指すとともに、本県リーディングブランド「とちぎ和牛」の生産を担う和牛繁殖農家となるよう頑張ります。

(畜産経営学科 宇塚 聖)